

	平成30年度
	事業報告書
I	事業報告(総括) 1
II	介護保険事業
1	特別養護老人ホームわがの里 5
2	わがの里デイサービスセンター 13
3	わがの里在宅介護支援センター 17
4	グループホームわがの里 20
III	わがの里保育園 22

社会福祉法人和江会

平成 30 年度社会福祉法人和江会事業報告

I 総括

(1) 事業概要

介護保険事業については、平成 29 年度事業活動計算書のマイナス決算からの脱却を目指す中、30 年度からの介護報酬改定の影響が心配されました。しかししながら、中長期計画で財務基盤の安定化の目標である基金積立目標には届いておらず、人材不足の中ではありますがさらなる利用者の獲得とコスト削減等に努力しなければなりません。

一方、保育園事業については、市からの要請もあり定員 140 人に対して 148 人を受け入れしたこと等により、前年度並みの実績となりました。しかしながら、保育人材も不足してぎりぎりの職員で対応していることから、子ども達の健康と安全の確保等に十分留意して保育環境の充実に努めなければなりません。

(2) 各サービス利用状況等

ア 特養ホーム事業は、長期利用については、退所者は 8 名（前年度 19 名）で入所待機者との調整を速やかに行って空きベットを極力少なくなるよう取り組んだ結果、利用率は 99.3%となりました。

また、短期利用については、入所待機者家族への呼びかけや長期利用の空きベットの活用などにより目標を大きく上回り 100.5%となりました。

イ デイサービス事業は、前年度低下した新規利用者の獲得を最重要課題として、急な追加利用や振り替え利用、体験利用の P R や他の居宅介護支援事業所への声かけ等を積極的に行った結果、1 日平均利用者が 32.6 人（前年度 29.3 人）まで回復しましたが、目標の 35 人には届きませんでした。

一方、理学療法士資格者を雇用できること等により個別機能訓練加算を算定できるようになったこと、また機能訓練に取り組む利用者が増えたことにより自立支援、重度化防止につながっていること、A D L 維持向上加算も算定できるようになったことなどにより高齢者が日常生活を営むのに必要な機能を維持・向上に繋げるためのサービス体制が強化されました。

ウ 在宅介護支援センターについては、逝去された方が多かったことなどにより居宅介護支援が前年を下回りましたが、予防居宅介護支援は増加しました。

エ グループホーム事業は、退所者が4名でたほか入院などで空きベットも35床出ましたが、利用率は98.9%と目標を上回ることができました。

オ 保育事業については、140名の定員に対し148名を受入れし、利用率が105.1%となりました。また、30年度から始まった職務・職責に応じたキャリアアップの仕組みを構築するキャリアアップ研修には延べ11名が受講して専門知識の習得に努めました。

サービス区分	定員等	年間最大利用者数	目標利用率	実績	利用率等	参考H29利用率
特養ホーム	50名	18,250名	98%	18,118名	99.3%	99.2%
ショートステイ	10名	3,650名	92%	3,669名	100.5%	93.9%
デイサービス	(50名)	10,780名	35人/日	10,037名	32.6人/日 93.1%	29.3人/日 86.9%
在宅介護支援センター	ケアプラン	175件/月	2,100件	1,954件	93.0%	92.6%
	給付管理	150件/月	1,800件	1,803件	100.2%	97.1%
グループホーム	9名	3,285名	98%	3,250名	98.9%	98.6%
保育園	140名	40,880名	100%	42,973名	105.1%	101.1%

(3) 役員会等の開催状況

ア 理事会

回	開催日	内 容
第1回	平成30年5月29日	①平成29年度事業報告並びに介護保険拠点区分決算及び保育園拠点区分決算について ②定款の一部改正について ③指定訪問入浴介護事業運営規程並びに指定介護予防訪問入浴介護事業運営規程の廃止について ④組織規程等の一部改正について ⑤期限付臨時職員等就業規則の一部改正について ⑥定期評議員会の招集について ⑦平成30年度介護保険拠点区分補正予算（第1号）及び保育園拠点区分補正予算（第1号）について 報告事項：理事長の職務執行状況の報告について
第2回	10月31日	①定款施行細則等の一部改正について ②平成30年度介護保険拠点区分補正予算（第2号）及び保育園拠点区分補正予算（第2号）について ③平成30年度介護保険拠点区分積立金取崩の取消しについて 報告事項：理事長の職務執行状況報告について
第3回	平成31年3月27日	①平成31年度事業計画並びに平成31年度介護保険拠点区分予算及び保育園拠点区分予算について ②平成31年度介護保険拠点区分積立金を取り崩すことについて ③平成30年度介護保険拠点区分補正予算（第3号）及び保育園拠点区分補正予算（第3号）について ④職員就業規則の一部改正について ⑤期限付臨時職員等就業規則の一部改正について 報告事項：理事長の職務執行状況報告について

イ 評議員会

回	開催日	内 容
定時	平成30年 6月15日	①平成29年度事業報告並びに介護保険拠点区分決算及び保育園拠点区分決算について ②定款の一部改正について 報告事項：平成30年度事業計画並びに介護保険拠点区分予算及び保育園拠点区分予算について

ウ 監事会

回	開催日	内 容
第1回	平成30年 5月22日	①平成30年3月31日（第4四半期末）現在における事業執行状況並びに介護保険拠点区分及び保育園拠点区分予算執行状況について ②平成29年度事業報告並びに介護保険拠点区分決算及び保育園拠点区分決算について
第2回	8月6日	①平成30年6月30日（第1四半期末）現在における事業執行状況並びに介護保険拠点区分及び保育園拠点区分予算執行状況について
第3回	11月7日	①平成30年9月30日（第2四半期末）現在における事業執行状況並びに介護保険拠点区分及び保育園拠点区分予算執行状況について
第4回	平成31年 2月4日	①平成30年12月31日（第3四半期末）現在における事業執行状況並びに介護保険拠点区分及び保育園拠点区分予算執行状況について

エ 役員協議会

回	開催日	内 容
第1回	平成30年 5月24日	①平成30年度第1回理事会及び第1回評議員会に提案する議案について
第2回	10月31日	①平成30年度第2回理事会に提案する議案について
第3回	平成31年 1月30日	①平成30年12月末現在の事業活動計算書について ②平成30年度決算見込について ③今後の日程（案）について 役職員研修会・いわて中部ネット、介護施設の整備計画等について
第4回	3月20日	①平成30年度第3回理事会に提案する議案について ②事故報告について ③平成30年度決算見込について ④簡易経営診断の結果について ⑤地域における広域的な取組みについて ⑥LED化工事について

(4) 施設・設備整備状況（1件10万円以上）

施設	内 容	数量等	金 額
特 養 ホ ーム	ベッドキャスター交換修理	5 台	252,633 円
	天窓廻り防水処理	3 箇所	106,272 円
	暖房用加圧システム更新工事	1 台	248,400 円
	温冷配膳車更新	32膳・1台	1,339,200 円
	業務用冷凍冷蔵庫	1,562㍑1台	486,000 円
	業務用冷凍冷蔵庫	640㍑1台	356,400 円
	床ずれ防止マットレス購入	3 台	206,388 円
	昇降テーブル（10段）	2 台	139,968 円
	暖房用真空ヒーター交換整備	2 台	199,800 円
小 計			3,335,061 円
デ イ サ ー ビ ス	歩行運動器具（平行棒）購入	1 台	199,800 円
	脱衣所タイルカーペット購入	16枚・13m ²	149,256 円
	滑り止めマット購入（100cm×300cm）	3 枚	101,574 円
	小 計		450,630 円
介護保険計			3,785,691 円

保 育 園	保育システム用デスクトップパソコン	1 台	127,440 円
	大型ストッカー	1 台	129,000 円
	厨房用エアコン更新工事	1 台	810,000 円
	業務用冷凍冷蔵庫更新	640㍑1台	356,400 円
	給水ポンプユニット交換工事	1 台	1,086,480 円
	調理従事者用トイレ増改築工事設計管理業務	一式	453,600 円
	調理従事者用トイレ増改築工事	一式	3,721,496 円
保育園計			6,684,416 円

II 介護保険事業

1 特別養護老人ホームわがの里

平成 30 年度の利用状況については、長期入所は 98% の目標稼働率を上げていたが、実績は 99.3% で、目標を達成した。30 年度は 8 名の入所者を看取り、ほとんど空床なく次の入所者を迎えた。

短期入所の目標は、92% だったが、実績は 100.5% で目標を達成することができた。

(1) 具体的な取り組み

① 笑顔で支援

平成 30 年度は「笑顔・生き生き・ありがとう」を目標に取り組んだ。

笑顔で対応することで入所者、職員間でもコミュニケーションがとりやすいなどの意見が多くあった。しかし、業務におわれて笑顔で接する余裕がないときもあったので、今後も「笑顔」を忘れずに対応していくことを目標に取り組んでいく。

② 介護力の強化

平成 30 年度も従来のマニュアルを職員全員で見直し、新しい手順書を作成した。見直したことにより介助をする上で注意しなければならないことが新たに多数出てきた。このことにより、職員の気づきにつながった。

介護技術向上に向けて、専門研修や福祉団体が行う研修等に積極的に参加させた。時世の流れなどについての情報を収集し技術を学んでくることができた。研修参加後は施設内で復命研修を実施し、職員の資質の向上を図った。随時、学習・研修を積み上げて人材を人財に変える育成に努めた。

③ 安全管理体制の強化

入所者の安全確保と事故防止については、リスク担当の職員を配置し、事故・ひやり・ハッとするが実際に起きた場合、その時にいた職員でまず話し合い、迅速に対応した。その後書面による再発防止策を提示し、介護職員に対応策の徹底を毎日伝えた。会議でも再度検討し、全職員に対応について周知する機会をもうけ、骨折などの大きな事故もなく過ごすことができた。〔表 1、2〕

身体拘束は 0 件継続中。入所者の人権尊重の視点からリスクマネジメント委員会で話し合い、身体拘束はしないように取り組んだ。

④ 施設サービス計画

施設サービス計画については、家族や入所者が満足出来るサービスを目指し、個別機能訓練計画及び栄養ケアマネジメント計画と何度もすりあわて、職員や家族間の連携を図った。サービス担当者会議には家族にも参加してもらい、家族及び職員間の連携を密にして、その時々の状態に応じた適切なケアを検討し支援することができた。

長期入所者 235 件（内新規 8 件）短期入所者 92 件（内新規 19 件）開催した。概ね 6 ヶ月毎に開催しており、状態の変化や看取り期に応じては随時開催した。尚、長期入所者に於いては家族同席で 53 件開催した。

特にも、家族同席での担当者会議は状態の共有を図ると同時に、施設サービスを理解していただき利用者家族との信頼関係を深める場につながった。また、短期入所者の開催件数が平成 29 年度と比較して 9 件増加しており、定期利用者の在宅生活の支援継続を深めることができた。

⑤ 入所者の権利や人格を尊重する介護・認知症ケアの強化

入所者が日々穏やかに過ごしてもらえるように、散歩やドライブに連れ出したり、創作活動への参加を促した。入所者の希望を聴きながら、自宅やイオンでのショッピング等へ出かけている。家族へも呼びかけることにより、一緒に楽しめる時間をもうけた。ドライブや買い物は好評なので、来年度も計画している。

入所者の行事については、舞踊・カラオケ・コラス等のボランティアを受け入れ、入所者全員が参加した。その際にデイサービス利用者やグループホーム入所者も招待し、より多くの人達が参加して楽しめるようにした。〔表3〕

また、5月から10月頃までは菜園活動として野菜や花きなどを育てた。自分たちで収穫した野菜が献立にでると、いつも以上に喜んで食べていた。

認知症ケアについての研修を定期的に行い、担当者会議でも個別の支援方法を検討しながら、安心して暮らしていくように取り組んだ。

⑥ 家族との連携及び情報共有

施設サービス計画に係る目標、取り組み内容、生活の様子、健康状態、食事の様子等々について、各担当職員が毎月家族へ連絡票を郵送している。家族からは『施設での様子が良く分かる。』との声が寄せられ、面会につながるように努めた。

また、面会時や電話等で家族との情報交換を行い、サービス計画の内容をより深く理解していただいた。

家族と一緒に外出や外泊ができるように、入所者本人の意向を家族へ伝え、できるだけ家族と過ごせるように援助し、とても喜ばれた。〔表4〕

⑦ 感染症対策

- ア) 肺結核～胸部レントゲン撮影（6月4日～7月5日）
入所者50名実施　肺結核なし48名　何らかの所見あり　11名
- イ) インフルエンザ～インフルエンザワクチン接種（11月下旬）
入所者　48名接種（家族の同意書徵取　北上市の補助金あり）
- ウ) 瘡癩～短期入所者の入所時を中心に日々皮膚の観察、衣類の加熱乾燥を常時行った。
- エ) ノロウイルス等の胃腸炎～嘔吐や下痢の症状が見られた場合、感染症を疑い、吐物・排泄物の処理等に細心の注意を払って対応を行った。
- オ) その他
 - ・インフルエンザ・ノロウイルス等の感染症発生時期（12月～3月）は、面会・奉仕・ボランティア等を制限し予防に細心の注意を払い、職員・外来者の体調確認と手指の消毒を徹底した。また、面会時はマスクの使用と面会室での面会をお願いした。
 - ・今年度はインフルエンザの発症者はいなかった。

⑧ 看取りケア

全身状態の変化により嘱託医より「回復の見込みがない」と診断された時は、身元引受人や家族への病状説明の場を設け、家族の意向に沿った対応を行った。

看取り期を迎えたとき、嘱託医の指示を仰ぎながら、きめ細かな対応と緩和ケアに務め、施設で出来る限りの看取り介護を行い、8名の方を看取った。

看取り後に家族にアンケートを依頼し家族の率直な意見を記入してもらった。どの家族の方からも感謝の言葉を頂き、今後の職員のやりがいにつなげていくことができた。

⑨ 入所者の状況・健康管理

- ・性別では、男性9名(18%)女性41名(82%)である。
最高齢者は102歳女性、最低齢者は71歳女性となっている。〔表5〕
- ・平均要介護度は、4.3である。要介護4、5の利用者割合が92%（前年度82%）。また、重度認知症（日常生活に支障をきたすような症状で行動や意志疎通が困難で常に介護が必要な者：Ⅲa以上）は、44名となっている。Ⅲa以上の割合が88%（前年度82%）。〔表6、7〕
- ・施設の入退所は、8名を施設で看取り、8名が新規入所しました。〔表8〕

◎ 健康管理

ア) バイタルチェックを行い異常の早期発見と早期対応

- ・介護職員との連携をはかり、異常の早期発見に努め、体調異常時は速やかに嘱託医に報告すると共に家族へ容態を知らせた。
- ・体調不良者は観察事項等を重点的に申し送り、きめ細かな観察・対応を行った。

イ) 回診及び専門病院受診の介助

- ・入所者が体調不良時、本人や家族の希望を聞き嘱託医の指示を受け協力病院への通院を行った。

《通院延べ人数》

県立中部病院	18名(入院1名)		
きたかみ駅前内科クリニック	5名	菅整形外科	1名
北上済生会病院	1名	藤田眼科	1名
むらさきのクリニック	2名	さやかクリニック	12名

- ・嘱託医の回診～週1回(火曜日の午後)行われた。

ウ) 服薬の管理

- ・嘱託医、調剤薬局との連携・協力により、入所者の服薬状態に合わせた処方をしてもらう事ができた。
- ・誤薬の防止策として、一人一人1回分ずつをセットし、色分け、トレイへの選別など準備の段階から数回の確認作業を励行した。

エ) 褥創予防対策及び褥創処置

- ・毎月褥瘡対策委員会を開催し、皮膚の清潔・除圧・栄養など介護職員や栄養士と協力して褥創の予防・処置・対応を行った。
- 現在の褥瘡発症者は0名である。

オ) 経管栄養

- ・経管栄養者は現在1名。栄養注入は、常に観察を行い異常の早期発見に努め、介護職員と連携し適切に提供できた。
- ・胃ろうカテーテルの点検を毎日行い、病院で定期的な交換を行った。
- ・吸引が必要な方は隨時行い、誤嚥や肺炎予防に努めている。

カ) 口腔ケア

入所者の毎食前の義歯装着の確認・食後口腔内の清拭のため歯磨き・うがい・ブラッシングを行い清潔に努めた。義歯は清潔保持のため毎食後に洗浄し保管した。

歯科衛生士が定期的(週1回以上)に口腔内を点検し、状況を毎月書面で家族に報告した。

経管栄養者の口腔清拭・歯茎のブラッシングを行い清潔保持に努めた。

喀痰の吸引を隨時行い誤嚥の予防に努めた。

入れ歯の不具合などがあったときには、隨時歯科医に通院した。

口腔ケアの外部研修会に職員を参加させ、個々にスキルアップできた。介護課医務課会議の場で復命し、介護職員全体のスキルアップにつなげた。

⑩ 個別リハビリ計画の実施及び評価

入所者の重度化に伴う「常時介護が必要な入所者」の比率は、歩行困難41名、排泄介助30名、食事介助18名、入浴介助44名、着脱介助33名となっている。ただしこの一部介助の入所者も全介助に近くなっている。〔表9〕

機能訓練指導員や介護支援専門員、看護師、介護職員等と連携して、日常的な機能訓練を行い、利用者個々の有する能力を可能な限り維持できるように支援した。

本人や家族に昔から得意だったことや、自宅での生活の様子を詳しく聞き、施設での活動にも取り入れ、生活意欲の低下防止に努めた。訓練に対して消極的な入所者もいたが、徐々に楽しみの一つになり、現在は積極的に取り組めるようになっている。〔表10〕

⑪ 栄養状況の把握及び安全でおいしい食事の提供

(1) 入所者、利用者の健康及び栄養状況を勘案した食事づくり

- ・入所者毎に他職種と協働し、概ね3か月に1回栄養ケア計画の作成・見直しを行った。それともとに食事状況（個別表）を毎月見直し、それに基づいた栄養管理と食事づくりを行った。【表 11】
- ・虚弱者、低栄養者は、普段の食事摂取量が少ないため、高カロリー、高栄養で食べやすいものを一品提供するなど、栄養不足にならないよう対応した。

《個別対応・H31.3 現在》

- 栄養補助食品提供者…10名
 - 食事時間調整者…4名
 - 食材別水分粘度対応者（とろみ）…とろみ強 7名 とろみ弱 10名
 - 療養食対応（糖尿 5名、減塩 4名）…9名
 - 食材制限者は随時対応（納豆、乳製品、揚げ物、野菜等）
 - ・北上市在宅高齢者等配食サービス事業で、お弁当作り（夕食分）を週3回行った。
- (2) 安全でおいしい食事の提供
- ・年間の行事や季節食は、それに合わせた献立を作成し、旬の食材を取り入れて食事面からも雰囲気を味わっていただくよう努めた。
 - ・衛生管理マニュアルの周知徹底を図り、安全な食事を提供することが出来た。
 - ・今年度は常時ソフト食、ムース食について取り組んだ。視覚良く、やわらかさを重視し、飲み込みやすく、入所者・デイ利用者に適した食事形態だった。
 - ・今年度も、家族、地域の方から野菜、果物、米などの頂き物があり、経費の削減につながった。これからも家族、地域の方との関係を大切にしていきたい。

⑫ 地域交流・奉仕活動・防災訓練・苦情受付

平成30年度における施設機能の地域開放を目指した地域交流実施状況は、交流に伴う行事への招待の他に、次のとおり受け入れを行った。

(1) 介護や育児についての相談会を開催し、施設見学や施設入所申し込み等の相談に応じた。日曜日に開催し、通常よりもより詳しく見学や説明の時間をもうけることができた。来年度も開催を企画しているが、地域の方が気軽に相談に来られるような環境を整え、利用者家族や地域住民と交流をはかることにより、施設に対する理解と親睦を深められるようにしていく。【表 12】

(2) 奉仕活動は、4団体等の年間奉仕計画作成と受け入れ調整を行いながら、毎月窓ふきや車椅子の清掃作業等を定期的に行って頂いた。活動後には懇談会も行い、施設の状況を説明したり、介護についての相談も受けてより施設のことを理解していただいた。来年度も活動に来て頂いた際には、このような意見交換会も随時おこなっていくことにする。【表 12、13、14、15】

今年度も感染症対策として、12月から3月までは奉仕やボランティアの受入を制限している。

(3) 施設防災訓練に関する実施状況は、防災委員会の開催および計画作成、通報訓練、避難訓練等を定期的に行つた。通報訓練については、今年度も全職員に一斉メール送信の連絡方法を実施した。メール送信は、深夜帯では気づかない可能性もあるため、有事の際はメールと電話の2系統で行うこととした。

また、8月23日に行った「わがの里防火・救助協力隊」との合同総合訓練では、消防署の立ち会いを依頼し、夜間の訓練に協力してもらった。その後、新救助協力隊員の紹介と意見交換会を行つた。毎年恒例となっているものであるが、この交換会における協力隊員からの防災訓練への意見及び感想等が今後の防災訓練への参考になることが多いので、意見交換についても継続していくことにする。なお、地震を想定しての緊急連絡体制も整えている。【表 16】

(4) 入所者等の権利侵害の未然防止やより良い処遇改善ができ、信頼関係が得られるよう相談・苦情窓口をもうけている。担当者会議や面会時に家族からの要望を聞く機会をもうけた。家族へのアンケートや日々の対応の中でも、「おおむねよくやっている」という評価が多かったが、引き続き家族との連

携を密にしていくために相談しやすい環境づくりを整えていく。

苦情解決情報交換会には第三者委員の方にも参加してもらい、施設内の取り組み状況を説明して意見交換を行った。他職種からの意見で気づくことも多くあり、今後もこのような意見交換会は継続していくことにする。来年度は苦情だけでなく、「お客様の声」として意見や要望をあげてもらい、職員の意識向上や処遇改善につなげていくことにした。〔表 17〕

⑯ 施設申し込み待機者の状況

平成 30 年度の新規入所申し込みは、120 件ありました。3 月末の待機者数は 298 名でした。施設入所申し込み者の家族へ呼びかけたり、各居宅事業所と連携しながらスムーズに短期入所を利用できるように調整した。利用してもらうことで、介護負担の軽減や本人の生活意欲向上につなげることができた。〔表 18、19〕

利 用 稼 働 率

入 所 者

満床(50床×12ヶ月)	目 標	実績 12ヶ月
18, 250床	17, 885床(98%)	18, 118床(99.3%)

短 期 入 所

満床(10床×12ヶ月)	目 標	実績 12ヶ月	長期空きベットの利用
3, 650床	3, 358床(92%)	3, 670床 (100.5%)	54床

転倒などの事故防止への取り組み

〔表 1〕 入所者・利用者の事故状況

(単位:件)

	骨 折	裂 傷	打 撲 等	皮 下 出 血	転 倒	ず り 落 ち	そ の 他	計
入 所 者	0	5	0	1	6	13	5	30
短 期 入 所	0	1	0	0	6	5	2	14
計	0	6	0	1	12	18	7	44

〔表 2〕 「ひやり・ハッピ」事例の上位

(単位:件)

1. 原因が明らかでない外傷（内出血、すり傷など）	118
2. ベッド、車椅子からのずり落ち、急に立ち上がる等	4
3. 行動（ベッドから降りて廊下にいた。一人で便座に座っていた等）	2
4. 異食（ボタンなどを口に入れた等）	2

入所者の権利や人格を尊重する介護・認知症ケアの強化

〔表 3〕 <行事の実施状況>

開催月日	行 事	実施場所		内 容
		園 内	園 外	
4. 4	開園記念行事	○		染正穂会の舞踊。行事食
4.20～5.1	花見・園庭散歩		○	施設園庭
5. 10	観音まつり	○		慶昌寺住職祈祷法話。行事食
6. 5	わがの里運動会	○		屋内競技会(保育園児と交流)。行事食
5月～10月	菜園活動		○	花壇の花植え、水やり 野菜・稻の管理・収穫 スイカ割り・焼き芋会
7. 7	七夕会	○		短冊紹介。季節食
7. 28	第28回 地域交流夏祭り		○	谷地鬼剣舞、笑ごまの会、入所者家族・保育園児・父兄・地域等と交流
9. 13	わがの里敬老会	○		敬老者表彰9名(家族参加)。泉三香

				会の舞踊。行事食。
7/23～10/31	紅葉ドライブ等	○		江釣子イオン9名、自宅4名。
12.24	クリスマス会	○		誕生会。入所者の歌。おやつ。
12.27	しめ縄飾り付け	○		しめ縄飾り作成。翌年1/7撤去。
1. 8	新年会	○		職員の余興。行事食。
2. 2	豆まき会	○		豆まき、季節食
3. 2	雛祭り会	○		入所者が着物を着て写真撮影。歌。季節食。

家族との連携及び情報共有

〔表4〕 入所者家族との外出・外泊 (単位:件)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
外出	2	2	2	3	4	2	3	1	3	1	1	1	25
外泊	1	0	1	2	1	1	1	2	2	0	0	1	12

入所者の状況・健康管理

〔表5〕 入所者の年齢 平成31年3月31日現在 (単位:名)

区分 性別	65～ 69歳	70～ 74歳	75～ 79歳	80～ 84歳	85～ 89歳	90～ 94歳	95～ 99歳	100～ 105歳	合計	平均 年齢
男	0	0	1	1	5	0	2	0	9	88.0
女	0	1	2	6	15	11	5	1	41	88.4
合計	0	1	3	7	20	11	7	1	50	88.3
29年度	0	1	3	10	19	9	7	1	50	87.7

〔表6〕 入所者の要介護度 平成31年3月31日現在 (単位:名)

区分	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
30年度	0	0	4	25	21	50
29年度	0	0	9	22	19	50

〔表7〕 認知症高齢者日常生活自立度 平成31年3月31日現在 (単位:名)

区分	自立	I	II a	II b	III a	III b	IV	M	合計
30年度	0	1	1	4	15	5	18	6	50
29年度	0	1	3	5	16	6	13	6	50

〔表8〕 入所者の退所・入所状況 (単位:名)

在籍者	新規入所者	入所前の居所			施設退所者	退所時の居所				
男	女	男	女	在宅	老健	施設	男	女	施設	病院
9	41	1	7	6	0	2	0	8	8	0

個別リハビリ計画の実施及び評価

〔表9〕 入所者の日動生活動作の状況 平成31年3月31日現在 (単位:名)

	歩 行	排 泄	食 事	入 浴	着脱衣
自 立	2	0	23	0	0
一部介助	7	20	9	6	17
全介助	41	30	18	44	33
計	50	50	50	50	50

	起 座	起 立	体位変換	車椅子
自 立	10	5	14	10
一部介助	9	19	5	5
全介助	31	26	31	35
計	50	50	50	50

	会話
普 通	32
会話難有	9
不自由	9
計	50

[表 10] 機能訓練延べ利用実績

(単位:名)

訓練項目	訓練内容	実人数	延べ人数
歩行訓練	独歩、歩行器、手引き、伝い歩き、平行棒	61	6,463
起立訓練	平行棒、トイレ時の起立、ベット車椅子間の起立	18	2,484
座位訓練	椅子上での姿勢保持、車椅子上での座位保持	25	6,106
レク活動	カラオケ、色塗り、読書、裁縫、制作活動等	196	3,102

栄養状況の把握及び安全でおいしい食事の提供

[表 11] 栄養ケアマネジメント実施状況

(単位:名)

実施月 (1日現在)	入所合計	入所者リスク変動			栄養ケア 実施合計
		低リスク	中リスク	高リスク	
4月	50	20	27	3	17
5月	50	24	25	1	13
6月	50	26	23	1	20
7月	50	23	27	0	17
8月	50	20	29	1	14
9月	50	20	29	1	20
10月	50	22	27	1	15
11月	48	22	25	1	15
12月	50	24	26	0	20
1月	50	24	26	0	15
2月	50	25	24	1	14
3月	49	22	25	2	21

※リスク判断基準

	低リスク	中リスク	高リスク		
体重減少率	3%未満	3~5%	5%以上		
BMI	18.5~29.9	18.5%未満			
疾患					
	褥瘡				

地域交流・奉仕活動・防災訓練・苦情受付

[表 12] 相談件数

開催日	介護 相談	育児 相談	内 容
8/19(日)	6	0	施設入所申し込み、デイサービス利用申し込み等
10/28(日)	3	1	民生児童委員視察研修41名、介護認定の申請等
12/16(日)	3	0	認知症の親の介護について、地域の高齢者の状況等
2/24(日)	4	1	申し込み待機者状況の確認、保育園の見学等

[表 13] 奉仕活動 定期

団 体 名	日 時	人 数	内 容
① 北上市民生児童委員会協議会 (和賀東・和賀西・江釣子地区)	毎月1回(4~9月) 14:00~15:00	4~6名	清掃 入所者交流
② MOA山月	毎週1回	3~4名	玄関生け花
③ 日赤奉仕団北上支部	年4回(5.7.9.11月) 第2木曜日10:00~11:00	3~5名	リネン交換 清掃業務

団 体 名	日 時	人 数	内 容
北上市婦人団体連絡協議会	概ね月1回	5~15名	清掃作業
北上市シルバー人材センター	3月26日	31名	清掃作業

※個別の訪問、奉仕、寄贈等については省略

[表 14] 行事協力

行事名	団体名(人数)	
第29回 地域交流夏祭り	①谷地鬼剣舞保存会(20名)	②笑ごまの会(6名)
	③ 長沼2区婦人部 (12名)	④えづりん (2名)
	⑤ 岩手酸素 (2名)	⑥北上信用金庫藤根支店 (8名)
13団体(105名)	⑦ 北上福祉教育専門学校・介護科(9名)	
	⑧わがの里保育園保護者会(18名)	⑨ サントリー (2名)
	⑩地域防火協力隊 (7名)	⑪ 柏葉酒店 (1名)
	⑫盛岡大学 (1名)	⑬黒沢尻北高等学校 (17名)

[表 15] 福祉専門学校等の介護現場実習

期間	日数	実習団体名	受入人数
5.21 ~ 6.8	15日間	北上福祉教育専門学校 (2年生)	1名
11.19 ~ 12.4	12日間	北上福祉教育専門学校 (1年生)	1名

[表 16] 《防災訓練等実施状況》

月 日	時 間	実 施 内 容
4月 9日	09:00	防災設備点検
5月 15日	14:00	防災対策委員会
7月 18日	14:45	避難訓練
8月 23日	09:30 14:15 18:00 19:10	消防署立入検査(北上消防署和賀中部分署) 消火器使用訓練、動力ポンプによる放水消火訓練 車椅子の操作方法の講習会 協力隊との合同総合訓練
9/21~27	14:30	デイサービス利用者避難訓練

[表 17] 苦情件数 (単位:件)

	特養入所	短期入所
援助に関する内容	0	0
その他	0	0

施設入所申込み待機者の状況

[表 18] 介護度別待機者状況 (単位:名)

区分	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合計
男	32	28	34	94
女	79	86	39	204
合 計	111	114	73	298
29年度	103	93	57	253

*平成 27 年度からは、新規申し込み受付対象が要介護 3 以上になっている。

[表 19] 居住地別待機者状況 (単位:名)

	在宅等で介護	老人保健施設に入所	グループホームに入所	医療機関に入院(療養型施設含み)	その他	合 計
合 計	79	76	12	90	41	298
29年度	67	61	14	76	35	253

*その他(特別養護老人ホーム入所中 4名、高齢者専用住宅入所中 7名、短期入所施設へ継続して入所中 30名)

2 わがの里デイサービスセンター

平成 30 年度は、「利用者の自立支援、重度化防止」「安心して過ごせる」「地域に開かれたデイサービスを目指します」を目標に取り組んだ。また数値目標として、1 日平均利用人数、35 人（要介護・障害 28.0 人、総合事業 7.0 人以上）を目標とした。

新規利用者の積極的な受け入れや、家族からの急な追加利用希望、振り替え利用等、増加に努めた。結果、今年度新規利用の受け入れ 31 名、体験利用 11 名、また他居宅事業所の利用者受け入れも積極的に行い増加した。（現在 28 名）また、要支援利用者や事業対象者の受け入れも積極的に行った。利用者獲得に努めたが、今年度実績は 1 日平均 32.6 人／月と目標数値に届かなかった。原因として、利用者の短期入所の定期利用（約 25 名／月）や冬期間の短期利用者増（5 名）、中止利用者（年間・25 人）と 1 日の利用人数が 30 人と届かない時もあった為、目標に達しなかった。登録人数増が考えられるが、フロアの席も空きが少なくなり、曜日により偏りがあるので、今後も検討が必要である。

【重点項目】

(1) 利用率の安定化

- ・ 利用者獲得に努めたが、全体の利用者の「要介護 3～5」の利用者の割合が減少し、H31 年 1、2、3 月と「中重度者ケア加算」が算定することが出来ず、減収になった。が、引き続き中重度者を積極的に受け入れるようにしていた為、1 年間の平均では 30% を超え、H31 年度は 1 年間算定出来るようになった。
- ・ 「個別機能訓練加算（I）（II）」の取り組み…平成 31 年 1 月より、理学療法士が勤務し、新たに「個別機能訓練加算」を算定することが出来るようになった。ホットパック、平行棒を導入し、機能訓練指導員（理学療法士、看護師）を中心に機能訓練に取り組み、利用者の ADL 維持向上に努めた。機能訓練に取り組む利用者が増えることにより、利用者の自立支援、重度化防止につながっていくので、さらに勧めていきたい。また、利用者の ADL の維持が出来ている割合が加算基準を満たし、H31 年度「ADL 維持等加算（I）」も算定できるようになった。理学療法士の指導を受けながら、どの利用者も ADL が維持できるような取り組みを増やすことで、職員の意識も上がった。
- ・ ハード面の強化…浴室の滑り止めマットの導入により、転倒防止を図った。衛生面、安全面を考慮し、脱衣場マットを廃止。畳フロアに変更し環境を整えた。重度者の受け入れを増やすため、ベットを購入し沢山の方が休めるようにした。
- ・ 口腔衛生…歯科衛生士を 2 人体制にし、積極的に取り組んだ。毎日「口腔機能向上」のサービス提供を継続して行えるようになり、口腔内の清潔・嚥下能力の維持向上と共に疾病の予防に努め、利用者の健康維持につなげた。
- ・ 認知症ケア加算の取り組み…認知症の進行防止や予防の実施、認知症介護実践者研修を終了した職員を中心に、脳トレーニング・回想法、体を動かす等を実施した。個別に対応する時間がなかなか取れない現状であった。
- ・ 中重度者ケアの取り組み…認知症ケアと合わせた体操の実施や食事や排泄など、現在出来ている動作を継続できることで、社会性の維持・改善を図り在宅生活が継続出来るよう取り組み、大きな ADL の低下はあまりみられなかった。
- ・ 感染症対策…復命研修による勉強会、玄関での消毒、食事前の消毒を継続した。
- ・ 2 フロア編成…同じ地域の利用者との交流を楽しみにしている方が多いため、介護保険利用者と介護予防利用者が混在したグループ編成の対応をした。また、状態の変化に応じて、フロア編成の見直しを話し合った。2 フロア編成で、ゆつたりと過ごせる空間を提供した。同じ地区の利用者と一緒に利用したい、という希望者もあった。

(2) 「家族や関係機関との連携」

- ・ 家族からの状態を把握し、職員間で情報を共有しながら、体調や生活機能の変化等、家族や介護支援専門員への報告はその都度実施した。担当者会議にも参加しデイサービスでの様子を報告すると共に、通所介護計画書を作成し個々に応じたサービス提供を行った。時間不足で、「通所介護計画書」の作成が遅れてしまう現状であった。
- ・ 毎月、職員会議の中で対応困難な利用者や新規利用者の支援を検討、周知した。

(3) 「人材の安定化と育成、介護力強化」

- ・ 介護認定更新者の状態把握、心身変化や対応困難な利用者の支援の見直しや適切な介護の検討を行い、個別対応が充実した。
- ・ 外部研修の参加者が研修内容を復命報告し、介護支援に係る知識や技術の習得を図った。特に、認知症研修、リスクマネージメントなどの学習会を行い、知識・技術の習得に努め、職員の資質向上を図った。

(4) 事故防止に努め、安心安全の強化を図ります

- ・ 「事故・ひやりハッ」と検証し、利用者の方々の安全を守りながら、喜んでもらえるサービス提供を心がけ、必要な介助や支援を行った。特に、安全対策として、浴室滑り止めマットの設置や、脱衣場の畳へ変更等、浴室の環境を整えた。大きな事故なく利用して頂いた。
- ・ 日々の業務の中で気づいた危険な場面や状況を報告し合い、大きな事故を防止できるように職員間での情報交換を行い、転倒防止や再発防止に努めた。
- ・ 平成30年度は、事故17件・ひやりハッと8件であった。※[表6]参照

(5) 「地域の方々が気軽に来られる開かれたデイサービスを目指す」

- ・ 行事の他にも慰問団体の受け入れをし、慰問の方々と利用者との交流にもつながった。
- ・ 今年度初めて、地域貢献として、デイサービス職員でわがの里周辺のゴミ拾いを計画し、わがの里周辺3コースに分かれて地域清掃活動を行った。ゴミ袋3袋回収した。
- ・ 介護者教室や地域の方々との体操等は取り組む事が出来なかつたので、介護相談会等で取り入れていきたい。

《 行事への取り組み 》

- ・ 「手作りおやつ」を実施し、普段食べられない出来たてのおやつを食べることができ「おいしかった」と喜んでいる様子が見られた。
- ・ 「敬老会」では沢山の団体の慰間に来ていただき、盛り上げていただいた。
- ・ 「作品展示会」ではおたのしみクラブ等で個人作品や共同作品を作成し、地域の方や利用者家族に呼びかけ、沢山の参加もあり好評を頂いた。見学者の家族からは掲示している写真を見て「家にいる時の顔と違って楽しそうにしていたのでビックリした」との声も頂いた。(作品 400~450点・見学者30名)

行事実施状況

行事名	期日	時間	場 所	内 容
手作りおやつ	6/18～6/23	14:30～15:00	Aと各フロア	ミニドーナツ・たこ焼き
敬老会	9/13～9/19	14:15～15:00	デイAフロア	敬老者表彰／記念品贈呈 園児の踊りと歌・慰問(3団体)
作品展示会	11/12～ 11/24	10:30～11:30 14:00～16:00	デイ各フロア	個人作品・共同作品展示 家族様からの作品展示 等
手作りおやつ	12/17～12/21	14:30～	デイAフロア	ミニクリスマスケーキ
新年会	1/8～1/13	14:10～14:40	デイAフロア	神楽・民謡・スコップ三味線慰問

(6) デイサービス利用登録者の状況

〔表1〕 利用登録の変遷

(単位:名)

区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
男	38	42	33	37	29	24
女	128	117	108	106	97	101
合計	166	159	141	143	126	125

〔表2〕 通所介護利用者数

(単位:名)

区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
介護保険	7,972	7,952	8,209	7,724	7,237	7,995
介護予防	1,821	2,027	1,903	1,814	1,597	1,845

〔表3〕 年齢構成

平成31年3月31日現在

(単位:名)

区分	65歳未満	65歳以上	70歳以上	75歳以上	80歳以上	85歳以上	90歳以上	95歳以上	100歳以上	合計
男	2	0	0	3	7	7	4	1	0	24
女	1	0	0	3	13	32	36	12	4	101
合計	3	0	0	6	20	39	40	13	4	125

平均年齢 88.5歳 男性 87.5歳 女性 89.5歳 (障害者除き)

〔表4〕 要介護度の状況

平成31年3月31日現在

(単位:名)

区分	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	障害者	合計
男	6	1	7	3	4	0	1	2	24
女	22	10	32	17	10	7	2	1	101
合計	28	11	39	20	14	7	3	3	125

〔表5〕 認知症高齢者の日常生活自立度 平成31年3月31日現在 (単位:名)

区分	自立	I	II a	II b	III a	III b	IV	M	合計
男	3	4	3	5	4	2	1	0	22
女	11	26	20	13	18	4	6	2	100
合計	14	30	23	18	22	6	7	2	122

(身障者3名除く)

〔表6〕 ひやり・ハッと、事故 件数

利用者の事故状況

(単位:件)

事故内容	転倒・転落	送迎時	その他	合計
件 数	3	2	12	17

「ひやり・ハッと」事例の上位

- | | |
|----------------------|----|
| 1. 送迎時 (安全確認不足) | 3件 |
| 2. その他 (衣類間違い、入浴中など) | 5件 |

(7) 身体障害者等デイサービス事業

身体障害者及び知的障害者等の自立促進、生活の改善、身体機能の維持向上等を図ることが出来るよう、創作的活動、機能訓練等の各種サービスの提供に努めた。

利用状況

(単位:名)

区分	25年	26年	27年	28年	29年	30年
登録人数	5	5	5	5	3	3
延利用数	218	250	216	162	184	196

(8) 配食サービス事業

自宅で一人暮らし、または夫婦暮らしの老人に対し夕食(1食500円)を届け、安否の確認や会話を通じてコミュニケーションを図り、孤独感の軽減に努めた。

また、食事提供以外に配食サービス事業が担っている、利用者の身辺状況の把握と関係機関との連携による在宅生活継続のための支援に努めた。「お弁当を届けてもらい食べるようになって元気になった」と言う利用者の声も聞かれた。

(14名の受け入れをし、年1,883食の弁当を届けた。)

利用状況

(単位:名)

区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
登録者数	12	13	15	14	14	14
実施日数	150	154	155	155	154	154
利用延数	1,465	1,467	1,846	1,810	1,626	1,883
平均	9.8	9.5	11.8	11.6	10.6	12.2

3 わがの里在宅介護支援センター

平成30年度は、特定事業所加算要件であります、実習生の受入(2名)、他事業所(JA花巻居宅介護事業所)とのケース検討会議開催(6回)、地域包括開催の研修会(6回)に参加し、介護支援専門員の資質向上に努めた。又社会福祉法人としての地域資源となるよう、施設全体の取り組みで、年間6回の介護相談会を行った。

支援困難なケースが増えてきているため、事業所内で随時の相談、地域包括との連携、保険者との情報共有、社会福祉協議会との連携を行い、解決に向けての努力をした。

利用者の契約終了は37名。内容は、在宅にてご逝去された方が12名(昨年は30名)、サービス付き高齢者住宅での逝去4名、病院での逝去11名。グループホームへの入所3名、特別養護老人ホームへの入所5名、療養型施設への入所2名、他居宅支援への移行4名だった[表6]。

入所については、本人や家族の状況を把握しながら、施設の情報を伝え、入所申し込みを促し、1人暮らしの限界や介護状況の限界を見極め、入所への橋渡しをすることができた。

実績を評価すると、居宅介護支援が前年を下回り、予防・総合居宅介護支援は利用者増となった。具体的に介護計画総数は、居宅介護支援1703件・前年比45件の減、予防・総合居宅介護支援507件・前年比113件増となった。[表2]

【重点項目】

- (1) 気軽に相談できる体制作り、必要とするサービスを速やかに提供できる体制作りについて
 - ・ モニタリング(月1回以上の定期訪問)により状態把握に努め、変化時には早期に対応できた。
 - ・ 事業所内での事例検討会を通して、必要なサービスや方向性を見つけ対応することができた。
- (2) 自立支援および要介護度の維持改善を視点としたケアプランの作成と適切なサービス提供について
 - ・ アセスメント(課題分析)を通じて、生活ニーズの視点に基づいた、その人らしさを実現できるケアプランを作成することができた。
 - ・ 介護事業所の介護計画を把握し、居宅サービス計画書と突合しているか確認。連携を図り、課題解決、自立支援の向上に努めた。
 - ・ 居住環境を把握し、本人、家族の意向を確認しながら、福祉用具業者や通所サービス(デイサービスやデイケア等)連携を図り、暮らしやすい環境作りに努めた。
 - ・ 医療サービスとの連携に努め、健康状態の維持向上に努めた。
- (3) サービスの質を確保するため、適宜の担当者会議を開催、情報および方針を有するための連携強化について
 - ・ 介護認定更新時による担当者会議開催の他、状態変化に合わせた担当者会議を随時行い、関係事業所との情報共有と連携で、本人、家族の支援に繋がった。
 - ・ 担当者会議には、自宅で本人、家族の参加で開催した。
- (4) 地域包括支援センター等との連携による包括的・継続的なケアマネジメントの実施と支援困難事例への速やかな対応について
 - ・ 介護や子育て放棄があり、地域包括支援センター、子育て支援センター、学校での地域ケア会議を行い、今後の方向性についての話し合いを行ったケースがあった。その他困難ケースについては、随時事業所内の検討会、サービス事業所や民生委員等との情報共有により、解決策を探った。
- (5) 介護支援専門員としての専門性確保と資質向上について
 - ・ 地域包括支援センター主催の事例検討会へ参加し、困難事例への解決策を他事業所のケアマネを通じ勉強になった。
 - ・ 他法人(JA居宅介護事業所)との事例検討会や研修会を実施。同地域との事例検討会で悩みを共有することができた(新たな取り組み)。

- ・権利擁護及び成年後見人制度の研修会、介護支援専門員協議会が開催する研修会に参加し、様々な知識を得ることができた。
 - ・事業所内での研修会実施。
- (6) 個人情報の保護と情報の共有に係る調整を行い、緊急な場合であっても適切なマネジメントが実施できる体制の確立
- ・個人情報の保護に努めながら、担当ケアマネが不在であっても、緊急な対応ができた。(例:急な短期入所利用や訪問介護利用等)
 - ・緊急な事があっても、連絡の取れる体制にある。
- (7) 介護報酬改訂に伴う、法令遵守と効率的な事業運営による収支の改善について
 ・給付管理は月平均(予防・総合含め)150件以上を推移することができた(表4-1、表4-2)
 ・特定事業所集中減算を回避することができた(表5-1)。又特定事業所加算(II)を継続できた。

【表1】利用者状況(介護度別の給付管理状況) 平成31年3月31日現在

	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
利用者数	27	17	61	30	26	12	10	183
比率	14.8	9.3	33.3	16.4	14.2	6.5	5.5	100
男性	9	2	16	9	7	3	3	49
女性	18	15	45	21	19	9	7	134

【表2】月別利用者数の推移

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
要支援1	21	22	24	24	25	28	29	27	30	30	28	27	315
要支援2	14	15	15	16	16	16	15	16	17	17	18	17	192
要介護1	62	62	64	63	63	62	61	61	62	57	58	60	735
要介護2	30	33	32	30	29	28	31	30	32	33	32	31	371
要介護3	25	25	25	25	31	27	27	28	24	25	24	21	307
要介護4	12	15	13	13	18	17	19	17	16	15	16	17	188
要介護5	10	11	12	10	9	7	7	8	8	7	8	5	102
合計	174	183	185	181	191	185	189	187	189	184	184	178	2210

【表3】ケース検討会開催状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実施回数	4	5	4	5	4	4	4	4	4	5	4	4	51

【表4-1】サービス別利用者数(介護サービス)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
訪問介護	20	20	19	20	22	21	21	21	17	16	16	15	228
通所介護	100	100	103	100	102	103	103	100	96	92	90	89	1178
通所リハビリ	29	30	32	30	30	29	29	28	27	27	26	27	344
認知症通所	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	3
訪問看護	26	28	29	29	29	30	28	28	28	26	27	25	333
訪問入浴	1	1	1	2	1	1	1	1	0	0	1	3	13
短期(生活)	33	32	36	36	30	34	42	38	41	38	35	33	428
短期(療養)	11	13	12	13	13	14	13	14	10	9	11	12	145
福祉用具貸与	82	86	84	84	83	82	81	80	79	75	73	73	962
訪問リハビリ	4	4	4	4	4	4	4	4	4	3	3	3	57

〔表 4-2〕 サービス別利用者数(介護予防サービス)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
予防訪問介護	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	24
総合通所サービス	28	30	31	32	32	35	35	34	37	38	37	34	403
通所リハビリ	5	5	5	5	5	5	4	4	4	4	4	4	54
予防短期入所	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	2
訪問リハビリ	0	0	0	1	1	1	1	1	1	1	1	1	9
予防訪問看護	0	0	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	10
予防福祉用具	11	11	11	11	11	11	11	12	12	11	11	12	135

〔表 5-1〕 特定事業所位置づけ計画数(わがの里通所介護) 80%以内

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
わがの里	73	75	76	77	77	77	78	75	73	69	67	67	884
他事業所	28	27	29	25	27	28	27	27	25	25	25	23	316
比率	72.3	73.5	73.0	75.4	74.0	73.3	74.3	73.5	74.5	73.4	72.8	74.4	73.7

〔表 5-2〕 特定事業所位置づけ計画数(わがの里短期入所)

参考

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
わがの里	22	19	20	21	18	20	25	19	21	19	18	18	240
他事業所	12	13	17	15	12	14	18	20	20	20	17	16	194
比率	64.7	59.3	54.0	58.3	60.0	58.8	58.1	48.7	51.2	48.7	51.4	52.9	55.4

H30 年度改正 対象サービスから除外

〔表 6〕 利用者の異動状況(要介護者)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
入院		1	1	2	1	2			1	1	2		11
施設(特養)								1		1		3	5
施設(老健)													0
施設(療養)					1				1				2
グループホーム		1						1				1	3
転居													0
他居宅支援			1								2	1	4
死亡	1	1		1	1		1	2	2		1	2	12
計	1	3	2	3	3	2	1	4	4	2	5	7	37

4 グループホームわがの里

- 平成 30 年度施設利用目標値は 98% と設定。利用者の入退所が 4 名あったほか、入院した事による空きベットがあったが、実績は 98.9% と目標は達成することが出来た。
- グループホームわがの里の理念「いつでも笑顔で安心して暮らせる日々を目指して」を具体化するため、家族や地域の協力を得ながら援助することが出来た。
- 平成 30 年度目標「一人ひとりを支えるために事業所の機能強化」では、利用者の高齢化や心身の状態に変化があり、全員での行事参加が難しく、行事内容の検討も必要となりつつあるのが現状だったが、昨年度とほぼ変わらない行事数を行なうことが出来た。入退所により利用者の状態の変化が大きいため、臨機応変に対応する事としていきたい。
- 利用者の日常生活動作の維持に向け、生活リハビリにも積極的に取り組んだ。散歩と毎日のラジオ体操、口腔体操をはじめ、風船バレー、ボール投げ、ことわざクイズ等も行った。また、ADL 維持向上に努めると共に、家族の金銭的負担軽減の為にも紙パンツの使用を中止している。
- 体内時計が狂わないように、午前中はなるべく身体を動かし、夕方に入浴するよう業務を行い生活リズムづくりに努めた。
- 平成 30 年 5 月より、歯科医師・歯科衛生士の指導による利用者への口腔ケアの強化を目的とした「口腔衛生管理体制加算」を算定している。歯科衛生士からの技術的助言及び指導を生かし、突発的な発熱や肺炎等を予防出来ていると感じる。
- 平成 30 年度は 2 名の方の看取り介護を行った。看取りはまだ日常的な出来事ではなく、不安な部分や曖昧な部分があった。ただ、家族の要望を聞き取りしながら処遇に反映できたとは感じているが、再度様々な事を学び、改めて介護の役割についてまで考える機会となつた。
- 年 2 回の避難訓練の実施と共に、防災設備の点検・確認を全職員で行い、緊急連絡先の見直し等も同時に行つた。

具体的な取り組み

①《交流の深化》

* 地区行事等に参加。

- 和賀東小学校運動会（3名参加）
- 江釣子 7 区「世代をつなぐ会」（3名参加）
- 鬼の館 大乗神楽（3名参加）
- 安野稻荷神楽慰問（全員参加）
- 江釣子 7 区演芸会（敬老会と重なり中止）
- 和賀東小発表会（3名参加）

《特養・デイ・保育園との関わり》

* 保育園との合同行事を増やすことで、世代交流の機会を確保できた。

- 保育園合同ピクニック
- 保育園カレーパーティー 悪天候中止
- 保育園合同芋の子会
- 特養観音まつり
- デイサービス文化祭
- 保育園運動会

《利用者の生活支援・行事の実施状況》

季節を感じたり自然にふれあうことで、利用者の意欲が向上し、家族や職員も併せて一緒に楽しめるような行事を企画した。

開催 月日	行事	実施場所		開催 月日	行事	実施場所	
		園内	園外			園内	園外
4月中	花見ドライブ		○	9/17	敬老会	○	
5/1	開所記念行事	○		10月中	紅葉ドライブ		○
5月中	りんごの花見ドライブ		○	10/6	芋の子会	○	
5/14	母の日会	○		10/20	外食ドライブ		○
5/13	つづじ見ドライブ		○	12/21	年越しそば打ち	○	
6月中	山菜採り		○	1/13	初詣	○	
7/5	梅干し作り	○		2/3	豆まき会	○	
7/29	夏祭り		○	3/3	ひな祭り会	○	

《家族との関わり》

家族との連携を図り、面会の促進と家族連絡票を活用した情報の共有を行うと共に、家族と過ごす時間を作れるよう援助した。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
外泊	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	2
外出	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1	0	1	5

- 利用者のサービス向上や地域に開かれた事業運営を確保するため、運営推進会議を年6回実施した。

② 利用者の自立支援と重度化及び看取りの取組

《入所者の性別・年齢状況》

(平成31年3月31日現在)

	80～84歳	85～89歳	90～94歳	95～99歳	100歳～
男	0	0	0	0	0
女	4	3	1	1	0
計	4	3	1	1	0

最高年齢 95歳 最低年齢 80歳 平均年齢 86.4歳 (29年度 88.8歳)

《介護度区分状況》

(平成31年3月31日現在)

	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
30年度	1	4	2	1	1
29年度	1	3	3	1	1

平均介護度 2.67 (29年度 2.78)

《入所者利用状況》

(平成31年3月31日現在)

9床×12ヶ月	実績 12ヶ月	新規入所者	施設退所者
3285床	3250床(98.9%)	4名	4名

《入所申し込み状況》

(平成31年3月31日現在)

男	4名	女	12名	合計	16名
平成30年度入所申し込み 15件 (男性2件・女性13件)					

《健康管理》

- 日々の体調観察バイタルチェック（入浴前、体調不良時）及び訪問診療・訪問看護との医療連携を図る事により、異常の早期発見に努めた。異常時は速やかに家族に容態を報告し対応すると共に、訪問看護に連絡し状態報告を行った。
- 排泄表を活用することで、適切な排泄誘導を行うことが出来ている。また、便秘対策として、ゴボウ茶、ヨーグルトやオリゴ糖を積極的に摂取し、下剤を使用せずに自然排便を目指している。

③ 安全管理の拡充と事故防止対策

(平成31年3月31日現在)

- 環境の整備、改善を行い事故（転倒・異食・脱園）等の防止に努めた。

[表1] 平成30年度 利用者の事故・ひやり・ハッと状況 (単位:件)

	骨折	裂傷	打撲等	その他	計
事故	0	0	1	7	8
ひやり・ハッと	0	4	0	15	19
計	0	4	1	22	27
29年度	0	1	1	35	37

[表2] 「ひやり・ハッと」事例の上位

(単位:件)

1. 原因が明らかでない外傷（内出血、すり傷、打撲など）	17
2. ベッドや移動時に転倒、ずり落ちなど	9
3. 異食・誤薬・入れ歯	0
4. センサーなど	1

III 保育事業〔わがの里保育園〕

- 保育所保育指針改定を機に全体の計画を見直し、それに基づいて指導計画を作成した。保育指針に合っている指導計画になっているか検討を重ねる必要がある。
- 処遇改善Ⅱにあたりキャリアアップ研修に11名参加させる事ができた。2021年までに対象者を研修終了にしていきたい。
- コピー機、印刷機を一体型にしたことで効率よく業務ができた。
- 重点目標「整理整頓を心がけ、気持ちよく仕事ができるようにする」では、整理整頓を気を付けて職員が行うことにより、個人的な価値観は違ったが保育をする上で自分達の仕事がスムーズになり、環境を整える事で子ども達の発達に即した遊びを考える事ができたと思う。又、職員同士の意識が高まっていると感じられた。まだ不十分な点があるので今後も取り組んでいくようにしていきたい。

1 年間開設日数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
日 数	24	24	26	25	26	23	26	24	23	23	23	25	292

2 児童の入所状況

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
乳児	15	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	191
1～2歳児	48	48	48	48	48	48	48	48	49	49	49	49	580
3歳児	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27	324
4～5歳児	56	56	56	56	56	55	56	56	56	56	56	56	671
計	146	147	147	147	147	146	147	147	148	148	148	148	1,766

3 児童の出席数

	年間在籍 合計	年間出席 児合計	年間保育 日数	月平均 保育日数	年間1日 平均出席数	年間 出席率
平成 30年度	42,973 人	33,758 人	292 日	24.3 日	116 人	78.6 %

4 保育の反省

- ・ 保育指針の改定に伴い、子ども達が主体的に遊び出せる環境作りを考え工夫しながら保育を行うようにし、未満児はごっこ遊びが充実し以上児も自由製作をし、一人ひとりが作りたい物をイメージしながら楽しめるようになり主体性が育ってきている。
- ・ 登園後の自由遊びや昼食後、夕方など戸外での活動を積極的に取り入れ、未満児も広い園庭でもたくさん遊ぶ時間が増え十分に体を動かして遊ぶことができ、体力づくりができた。

5 特別保育事業

① 障害児保育

対象児8人に対して4人の保育士を加配した。こども療育センターより保育園に来て頂き専門家によるアドバイスを直接受けた。また、研修会に参加して知識を深め保育の向上に努めた。保護者に体しては、支援ファイルを用いて子どもの育ちや問題等について支援につながる手立てを確認し合うなど、その都度面談を重ね共に成長を喜び合うことで共通理解を持ち、信頼関係を気づくことができたと感じる。

② 延長保育

月平均13.17人利用の月決め延長の契約児があり、18：30以降の延長保育利用児が昨年の4.36人から6.65人と増えた。アレルギーや離乳食時の園児のおやつの誤食を防ぐためチェック表に記入しおやつを持っていくことを徹底し、

事故なくおやつの提供ができた。園児の遊びも迎えを待つ間、ゆっくり楽しく過ごせるよう遅番職員が相談し子ども達が好きな遊びができるよう工夫し、日々保育した。

・延長保育利用状況

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
契約児(人) (前年度)	15 (14)	12 (12)	13 (13)	12 (13)	13 (13)	13 (12)	12 (12)	13 (12)	13 (12)	14 (8)	13 (7)	11 (7)	154 (135)
緊急延人数	12	18	16	10	15	17	16	17	14	14	13	18	180

③ 地域活動事業(世代間交流)

	行事名	参加	実施内容
6月	老人ホーム運動会	5歳児	老人ホームの運動会に参加
8月	カレーパーティー	5歳児・グループ ホーム入所者・地域の方	畑でとれた野菜を使い年長児が調理体験 できたカレーと一緒に食べる
9月	江釣子地区敬老会	5歳児	江釣子地区敬老会参加(ホテルシティプラザ)
	デイサービス敬老会	4歳児	デイサービス敬老会に参加、踊りを披露する
	保育園運動会	園児・祖父母 保護者	保護者・祖父母と一緒に競技をする
10月	グループホーム芋の子会	5歳児	グループホームの芋の子会に参加する
	焼きいも会	全園児・グループ ホーム入所者・園開放 の未就園児	焼きいも会と一緒に楽しむ 焼きいもを食べる
1月	もちつき会	5歳児・祖父母	みづき飾りをする 会食をする
	観劇会	園児・未就園 児地域の方 ・施設の方	人形劇団「夢みる風船」による人形劇を 楽しむ
3月	ひなまつり会	全園児・地域 のお年寄り	地域のお年寄りを招待し、お年寄りが作つ たつるし雛や園児が作ったひな人形を飾り 、歌や踊りで楽しむ

6 児童の健康管理

・健康診断の実施状況と結果

内 容	実施月日	担 当 医	検 診 結 果
内 科	5 / 29	村上淳子小児科医	水いぼ1名 姿勢注意3名
	10 / 23	〃	異常なし
眼 科	5 / 7	藤田眼科医院	アレルギー性結膜炎6名 外斜視1名 内反症1名 右上斜筋麻痺1名
	10 / 1	〃	アレルギー性結膜炎7名 外斜視3名 内斜視1名
歯 科	5 / 9	畠山歯科クリニック	虫歯あり22名 (治療完了者含む)
	10 / 10	〃	虫歯あり25名 (治療完了者含む)

※ 4月インフルエンザ13名、溶連菌感染症13名、1月インフルエンザ25名が罹患した。1月のインフルエンザは、2週間にわたり感染者が出た。1割発症したので北上市、県南保健所、嘱託医に報告し、クラス別の保育や以上児棟未満児棟で分かれて保育を行う。3歳児1名、インフルエンザ脳症で入院治療する。後遺症が残ると退院時の説明があった。登園後は危険がないよう保育者が1:1でつくよう配慮した。保護者へ嘱託医からの指導もあり、再度予防接種を受けることの大切さを啓蒙していく。

※ 胃腸炎対策として11月より園内、トイレの消毒を毎日行う。感染拡大することなく経過している。症状がある場合の登園のめやすについて保護者に周知する。

7 安全管理

① 安全点検

毎月1回園舎内外の安全点検を行い、環境の不備による事故の防止に努めた。

② 安全指導

毎月1回安全指導の日を設定し、3歳未満児と3歳以上児に分かれて集会や実践を行った。年間計画に基づき、遊具の安全な遊び方、交通安全指導、水遊びの安全、不審者対応訓練、冬の安全な暮らし方、誘拐防止教室等を行った。また、交通指導員による交通安全教室を3回開催した。

③ 避難訓練

火災や地震に関しての園内での訓練の他、水害を想定し全園児が地区避難所までの避難、消防署員の指導により避難、消火、煙体験等の総合避難訓練も行った。今年度より通報訓練を2回行うこと、以上児は防災頭巾を使用した訓練を行った。

④ 事故防止

睡眠時無呼吸症候群への対応として、午睡中の睡眠チェックを全園児に拡大して実施した。保育中の事故では通院を要したもののが1件（額殺傷）あった。

8 栄養管理

- 地元の食材をできるだけ取り入れながら、季節感があり色彩豊かで調和のとれた献立を工夫し、給食が子どもにとって魅力的なものであるよう食事の質の改善と、美味しい給食の提供に努めた。
- 低年齢児は離乳食調査票を用いて家庭での様子を把握して食事や食具の提供をした。離乳食から幼児食へ移行する際には、食品調査（特定原材料について）と同意書を提出してもらい摂取状況を把握しながら進めた。
- 食育集会やクラスの巡回を行った。年4回の食育集会では体と食べ物の関係に关心を持ち、食べる意欲へつながるよう様々な媒体を用いて知らせた。
- 食物アレルギーや体調不良の子に対しては個別の対応をした。食物アレルギー対応マニュアルに沿って、医師による生活管理指導表に基づき保護者と面談し、全職員が共通理解した上で除去食品の誤食などの事故防止に努めた。
- 大量調理衛生マニュアルに沿って衛生管理を行った。ノロウィルスが流行する前に職員全員で話し合い共有化をはかったことで衛生管理への意識が高まった。特に調理に関わる職員は、自身の健康管理や衛生管理の徹底に努め安全で安心できる食事の提供ができた。
- 年間食育指導計画に基づき、子ども達が畑で育てた野菜を給食に取り入れたりクッキングやバイキング等を通じて食べ物への興味や関心をもてるよう配慮した。
- 日本人の食事摂取基準に基づき子どもの性別、年齢別栄養状態、生活状況等を把握し給与栄養量の見直しをし、塩分・鉄分など子どもの実態に応じた目標量を設定した。

給食実施の結果摂取量(1日の1人当たり)

区分	未満児		3歳以上児	
	目標	摂取量	目標	摂取量
カロリー	493	527	408	477
蛋白質(g)	18.5	20.0	19.1	20.5
脂肪(g)	13.7	16.4	15.0	18.3

※摂取量3歳以上児の数値が少ないのは、米飯を持参しているため。

9 職員研修状況

① 園内研修

年間を通して環境を通した保育を考えることを主なテーマにおいて取り組んだ。講師を招いて研修したり、グループワークを取り入れ一人ひとりが意見を出し合うことで学びの場となり質の向上や保育観の共通理解にもつながった。運営について担当者が工夫し、職員みんなで取り組み充実したものになったと感じる。

② 園外研修

保育の実践についてや虐待、地域交流等様々な研修に参加した。学んだことはその都度回覧と会議での報告で職員に周知している。研修案内は回覧することで自主研修で参加する職員も多かった。今年度から始まったキャリアアップ研修は1研修15時間で内容も充実しており、業務に活かしていくもので今後の研修にも期待したい。

10 苦情受付状況

職員の園児に対することばがけについての苦情が1件あった。

11 行事実施状況

4月	入園お祝い会	11月	文化祭参加（江釣子地区、和賀地区）
5月	親子バス遠足		小学生との交流会（和賀東小）
	園児健康診断	12月	発表会
6月	保育参観		新規内定者面接
	交通安全教室		クリスマス誕生会
7月	個別面談	1月	もちつき会
	七夕誕生会		観劇会
	テッラコンサート		交通安全教室
	防犯教室	2月	豆まき会
9月	運動会		保育参観
	古墳まつり参加		お茶会
	江釣子地区敬老会参加	3月	ひなまつり会
10月	総合避難訓練		お別れ会
	園児健康診断		入園説明会
	やきいも会		進級お祝い会
	交通安全教室		卒園式

誕生会、避難訓練、安全指導	毎月
ピクニック	5月～10月
英語教室（10回）	5月～2月
サッカー教室（2回）	
食育集会（4回）	
衛生集会（3回）	